

東天竜一貫水路

低位段丘上への用水路建設

辰野町平出の天竜川左岸で取水される、総延長9,140mの幹線用水路。

1927(昭和2)年に用水に取水する頭首工が建設された。

頭首工の表面は、自然石を配置し、堤体はカーブしている。

東天竜用水路頭首工は日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物2800選)に選定されている。



堤体がカーブしている東天竜用水路頭首工

information

□ **アクセス**
(東天竜用水路頭首工)
岡谷ICから10km
車→20分

□ **所在地**
辰野町平出～赤羽
～樋口、
箕輪町北小河内



東井筋

東天竜一貫水路の元となった上平出の北の諏訪境から取水する上井筋は、1859(安政6)年にほぼ完成した竜西側の西井筋と区別され、東井筋とも呼ばれた。

堤体のカーブ

取水口から兩岸を結ぶ床固工は、アーチ状の美しい曲線形となっている。これは、流水を取水口と魚道に集中させるとともに、床固工を越えた流水を河道中央部に集めるために考え出された形状である。このような形状は、急流の河川にみられ、自然に習った先人達の知恵を垣間見ることができる。



(国土地理院の数値地図50000(地図画像)を使用)